

令和4年産(3年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:シラネコムギ		
		平年	令和3年(播) ~4年(産)	平年比	平年	令和3年(播) ~4年(産)	平年比
出芽期	出芽数 本/m ²	160	186	116%	161	195	121%
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	11.1	13.4	121%	13.6	15.5	114%
	茎数 本/m ²	334	693	207%	378	788	208%
	葉数	3.3	5.9	+2.6	3.9	6.1	+2.2
越冬後 (3月1日)	草丈 cm	11.8	14.5	123%	14.8	16.4	111%
	茎数 本/m ²	659	1122	170%	858	1140	133%
	葉数	6.2	7.1	+0.9	6.2	7.4	+1.2
(3月15日)	草丈 cm	14.5	14.6	101%	17.3	16.9	98%
	茎数 本/m ²	874	1203	138%	1030	1248	121%
	葉数	7.1	8.2	+1.1	7.1	8.7	+1.6
幼穂形成期 茎立期(参考)		3月3日	2月24日	-7	3月17日	3月11日	-6
		3月28日	4月1日	+4	3月27日	4月1日	+5
出穂期		4月29日	4月27日	-2	5月5日	5月2日	-3
成熟期		6月6日	6月6日	0	6月15日	6月16日	+1
成熟期	稈長 cm	93	97	104%	85	88	104%
	穂長 cm	4.6	4.7	102%	8.5	7.7	91%
	穂数 本/m ²	424	647	153%	509	527	104%
収量	子実重 kg/a	68.0	76.0	112%	64.9	78.2	120%
	容積重 g/l	695	687	99%	795	796	100%
	千粒重 g	38.5	39.1	102%	42.6	42.2	99%

※平年値は過去7年間における収量最大年と最小年を除いた5カ年の平均値。

※茎立期はデータ数不足により平年値は参考値として平成30年度~令和3年度の平均値を示す。

<耕種概要>

栽培様式: 30cm条間ドリル播

播種期: 大麦 令和3年10月20日、小麦10月21日 播種量: 7kg/10a

施肥量(N): 基肥 6kg/10a

酸度矯正: 炭苦土石灰50kg/10a

茎立期追肥: 3月8日 N3kg/10a

止葉展開期追肥: 大麦4月19日 小麦4月25日 N2kg/10a

<生育概況>

越冬前

播種は平年並みに行われ、その後も好天が続き、出芽状況は良好であった。

越冬前の生育は、播種後、平年より高温多照傾向が続いた影響からか、草丈、茎数、葉数ともに前進した。

越冬後

年明け以降の気象経過は、平年より低く推移した。また、降雪が多く、1~2月にかけて断続的に根雪状態となっていた。3月1日時点での生育は、草丈、茎数、葉数ともに平年より前進傾向であった。

3月に入り温暖・少雨傾向となり、3月15日時点の生育は、大麦、コムギともに草丈は平年並み、茎数は多く、葉数は1葉以上進んでいた。

幼穂形成期~

幼穂形成期は、平年より大麦で7日早く、コムギで6日早かった。近年は降雪が少なく温暖傾向であったことから幼穂形成期は2週間~1ヶ月程度前進していたが、本年は降雪、低温傾向により、平年より1週間程度の前進であった。茎立期(下位節間2cm期)は平年より4~5日程度遅かった。

茎立期

出穂期

茎立期までの生育は平年よりやや緩慢に推移したが、越冬後は平年より高温傾向で推移したため、出穂期は平年より大麦で2日、小麦で3日早まった。

成熟期

成熟期は大麦では平年と同日、小麦では1日早まった。大麦・小麦とも稈長はやや長く、穂長は大麦では長め、小麦では短かった。穂数は大麦・小麦とも平年より多い傾向が見られた。

収量

大麦・小麦とも、容積重・千粒重は平年並み、子実重は大麦で12%、小麦で20%の多収であった。